

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	・終末期に向けた取り組みとして、管理者レベルでの研修は受講済みだが、その結果を踏まえてホーム内で協議する機会を設けるまで至っていない。また、終末期に対するホームの考え方もきちんと定めていない状況。	・終末期に向けたホームとしての指針を明確にし、入居者ご家族に説明するとともに同意を得る。	・指針についての骨組みを作成したことから今後この文章に具体的な肉付けを行いながら主任以上会議の中で方向性を定め、職員も含めた会議の場を設定し、ホームとしての指針を固める。その後、運営推進会議にて意見をいただき、終末期の指針を定め、ご家族様へ周知し同意を得る。	12ヶ月
2	10	・家族からの意見聴取は来所持やケアプラン説明時、運営推進会議開催時に聞き取りしているが、より積極的にまた、定期的に意見をいただき運営に反映できる機会がない現状にある。	・家族からの意見がより運営に反映できるようアンケートなどにより意見聴取できる機会を作る制度を整備する。	・主任以上会議でその手法を協議し、経営会議の中で制度化し実施する。手法としては、アンケート調査的な内容で最低1年に1回は意見を吸い上げることができるような制度を検討し実施する。	12ヶ月
3	1	・事業所の基本理念を基盤に各ユニット単位での理念を掲げているが、これまで各ユニット理念について定期的な見直しを図るといった機会が設けられていない。	・最低でも年に1度もしくは2年毎程度に現在のユニット理念を振り返り、この理念が現在の利用者のケアに正しく結びつく理念として機能しているのか意味を確認する機会を設ける。	・今年度中にも現在の各ユニット理念について振り返り、見直す機会をユニット会議、学習会などを通じて実施し、職員間で新たな価値観を生み出し日々のケアに取り組む機会を整備する。	12ヶ月
4	26	・ケアプランを実施した結果を評価するモニタリングが日々の個別記録と連動しておらず、記録として残されていない状況です。プランに沿ってケアを実践しているが、毎日のケアの中でその内容を評価できる仕組みを作り上げる必要がある。	・ケアプランの内容に沿ってサービスを実施したことについての評価内容をしっかりと記録として残していく仕組みを検討し、モニタリングがしっかりと記録として残る方法を整備する。	・手法については主任以上会議等で協議を図りながら日々の記録に連動しながらも複雑な作業手順にならない工夫をこらし、継続して実施していけるような評価方法を検討し、記録として残す。	12ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。